

みやぎ女性応援プロジェクト実態調査について

目 次

みやぎ女性応援プロジェクト実態調査の概要	2
女子学生の就職と定着に関する意識の実態 —宮城県内大学・短期大学学生就職等調査の結果—	3
宮城県内企業における女性採用と女性活躍の実態 —企業等女性活躍実態調査の結果—	1 6
まとめ	2 6

みやぎ女性応援プロジェクト実態調査の概要

1. 調査目的

宮城県では、大学・短期大学を卒業した学生の半数近くが就職を機に県外に転出しており、高齢化や人口減少の要因の一つとなっている。こうした現状を緩和するため、多くの若年層、特に女子学生が県内に定着しやすい環境の整備を推進することが求められている。そこで本調査では、県内の大学生及び県内企業を対象にアンケート調査（大学生には追加インタビュー調査）を実施し、大学生の就職に対する考え方や就職活動、就職先に求める要件などと、県内企業の女性採用と女性活躍の取組みなどの実態を把握する。そして双方の調査結果を分析し、若年層、特に女子学生の県内への就職及び定着に有効な施策や、若年層への効果的な施策等の広報、庁内の広範な業務に活用するための基礎資料とする。

2. 調査内容

(1) 宮城県内大学・短期大学学生就職等調査

宮城県内の大学生・短期大学生に関する就職や生活等の調査分析

(2) 企業等女性活躍実態調査

宮城県内の企業等に関する女性採用や女性活躍等の調査分析

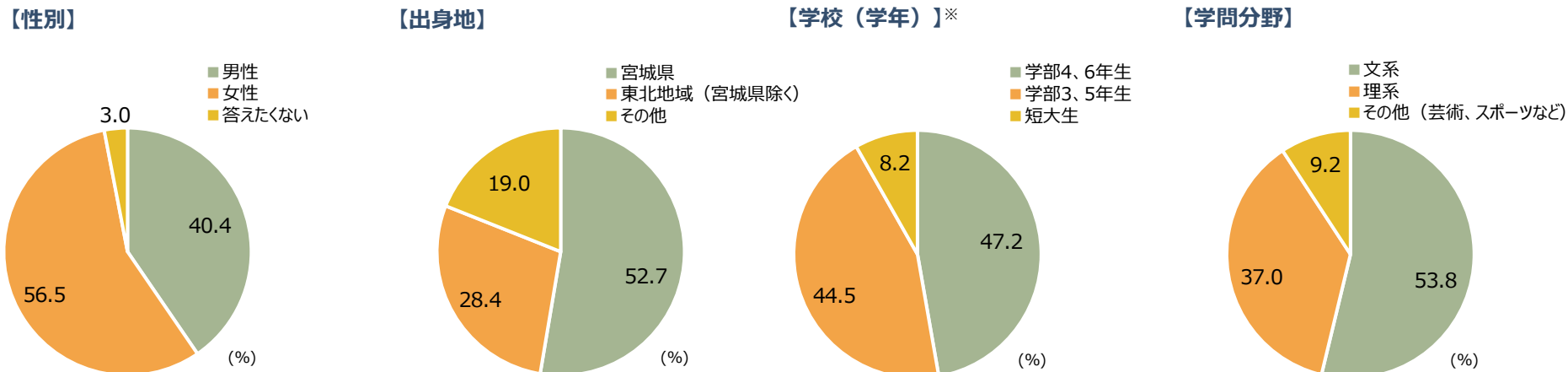
調査の概要

	(1) 宮城県内大学・短期大学学生就職等調査		(2) 企業等女性活躍実態調査
	① アンケート調査	② インタビュー調査	
調査目的	県内大学生・短期大学生の就職と定着に関する意識等の把握		県内企業の女性採用と女性活躍の取組みなどに関する実態の把握
調査対象 (分析対象)	県内の大学及び短期大学（19校）に在籍する短大生及び大学3，4年生等	アンケート調査の回答者から抽出した学生	従業員数10名以上の県内企業から抽出した1,525社
調査時期	令和4年6月3日（金）～26日（日）	令和4年7月23日（土）～24日（日）	令和4年6月6日（月）～26日（日）
調査手法	インターネットアンケート	オンライングループインタビュー	紙面アンケート
回答数等	1,882人	20人	543社

女子学生の就職と定着に関する意識の実態
—宮城県内大学・短期大学学生就職等調査の結果—

(1) 宮城県内大学・短期大学学生就職等調査 〈回答者の属性〉

① アンケート回答者の属性 (n=1882)



② インタビュー回答者の属性 (n=20)

【性別】	【出身地】	【学校（学年）】	【希望する就職先地域】																		
<table border="1"> <tr><td>男性</td><td>8</td></tr> <tr><td>女性</td><td>12</td></tr> </table>	男性	8	女性	12	<table border="1"> <tr><td>宮城県内</td><td>13</td></tr> <tr><td>東北地域（宮城県除く）</td><td>6</td></tr> <tr><td>その他</td><td>1</td></tr> </table>	宮城県内	13	東北地域（宮城県除く）	6	その他	1	<table border="1"> <tr><td>4年制4年生</td><td>16</td></tr> <tr><td>4年制3年生</td><td>4</td></tr> </table>	4年制4年生	16	4年制3年生	4	<table border="1"> <tr><td>宮城県内</td><td>8</td></tr> <tr><td>宮城県外</td><td>12</td></tr> </table>	宮城県内	8	宮城県外	12
男性	8																				
女性	12																				
宮城県内	13																				
東北地域（宮城県除く）	6																				
その他	1																				
4年制4年生	16																				
4年制3年生	4																				
宮城県内	8																				
宮城県外	12																				

※「学部4、6年生」は4年制4年生及び6年制6年生、「学部3、5年生」は4年制3年生及び6年制5年生

※ 記述について

・構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合もある。

・学問分野は、次のとおり学部をまとめて集計している。

文系	「法律・政治」「経済・経営・商学」「社会・メディア」「国際関係」「文学・人文・人間・心理」「外国語」「教育・福祉」「家政・生活」「教養・総合」
理系	「理・工」「農・獣・畜産・水産」「医・歯・薬」「看護・保健・衛生・リハビリテーション」
その他	「芸術・表現」「健康・スポーツ」「この中にあてはまるものはない」

将来希望する就職先地域

希望する就職先地域は、「宮城県内」が4割、「宮城県外」が3割、「どちらでもよい」が3割。
特に県外出身者が「どちらでもよい」と答えた割合が高い。

図1 希望する就職先地域（単一回答）



図2 出身地別 希望する就職先地域（単一回答）

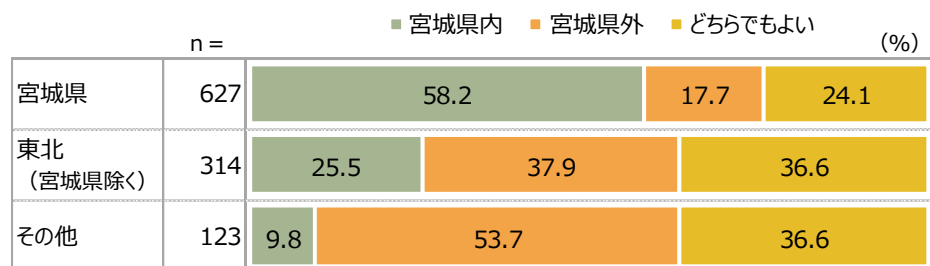


図3 学校（学年）別 希望する就職先地域（単一回答）

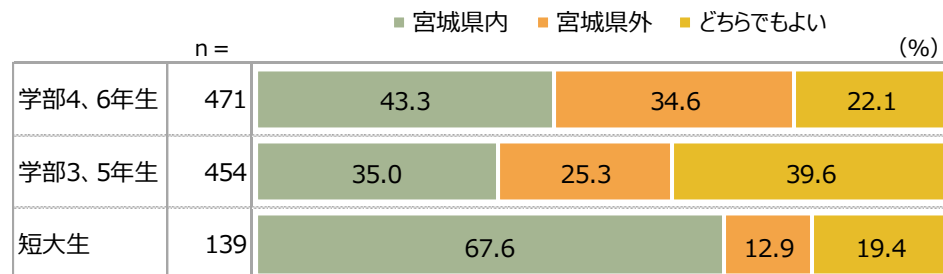
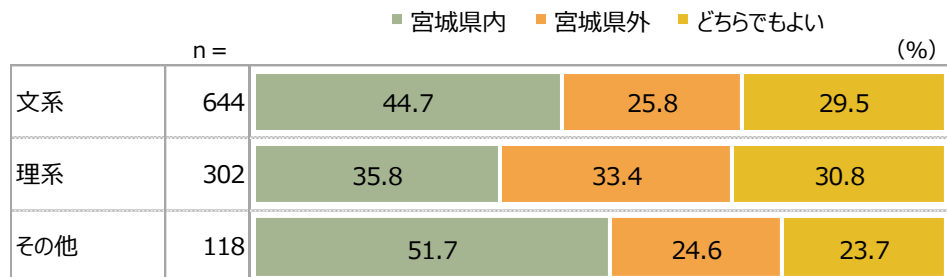


図4 学問分野別 希望する就職先地域（単一回答）

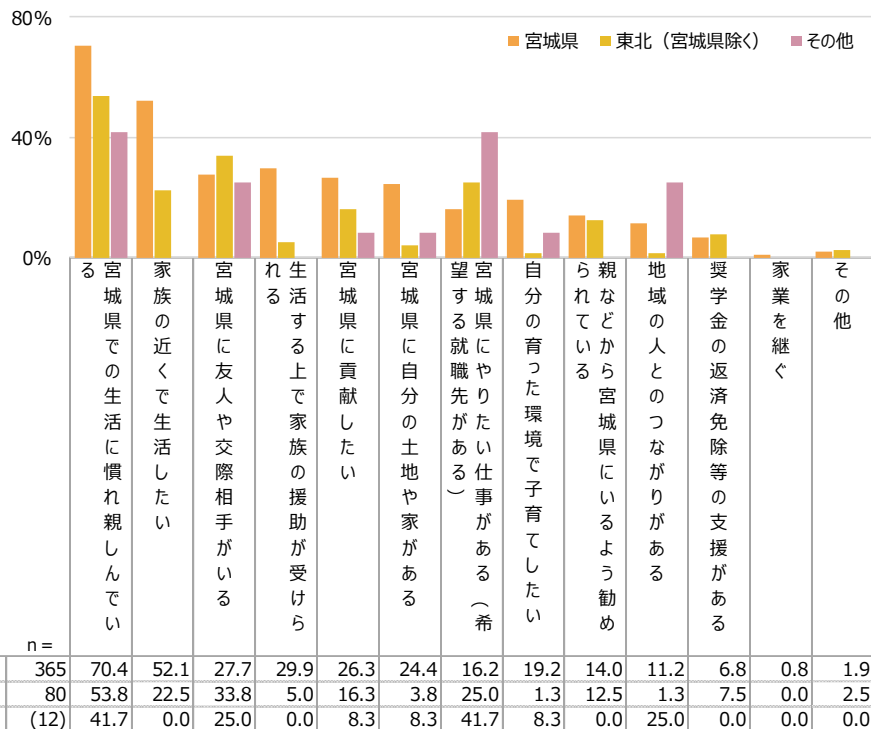


※「その他」は芸術、スポーツなど

就職先として「県内」を希望する理由

全体では「宮城県での生活に慣れ親しんでいる」が最も多いが、県内出身者は県内就職を希望するにあたり家族との関係性も重視。
 県外出身者は在学中の交友関係や自身のやりたい仕事の有無が県内就職意向につながっているのも特徴。
 また、特に「仙台市」を高く評価。

図5 出身地別 県内を選ぶ理由（複数回答）



※ サンプルサイズ30未満は「()」で参考値として表示

県内出身者が宮城県で就職したい理由【インタビューより】

- 地元が好き。あまり都会過ぎるところ、田舎過ぎるところには行きたくない。都市もあってちょっと行けば山も海もある宮城県がちょうどいい。宮城県が好きだから出たくない（県内出身_女性）
- 慣れ親しんだ土地から移動はしたくない。あまり変化は求めない。今まで成長したところで暮らしていきたい。あとは両親が好きだから離れたくない。できれば家から県内に通いたい（県内出身_女性）
- 東京とか都会に出たら普通に生きていだけで疲れると思った。宮城も好きだし宮城県がいいと思う。自分はひとりっ子だから両親の介護が気になっていて、宮城県内にいればすぐに対応できて不測の事態にいいと思う（県内出身_女性）

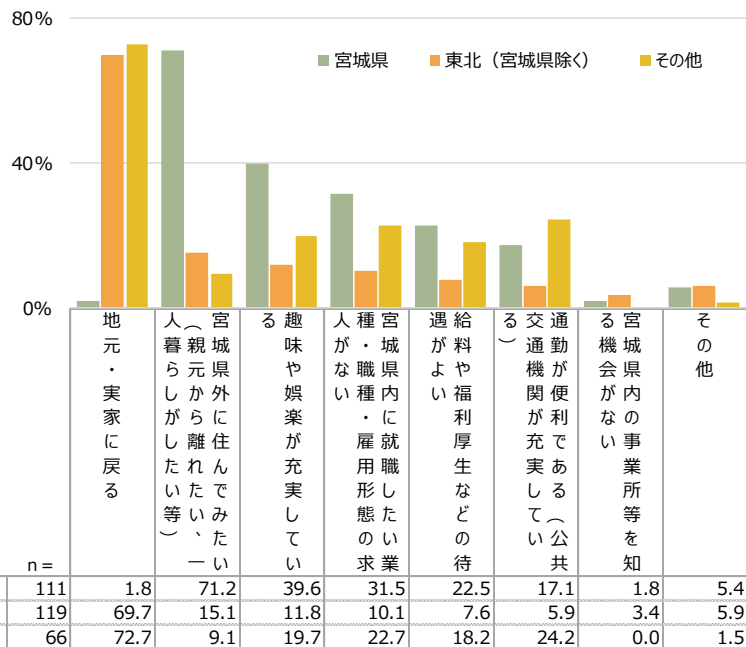
県外出身者が宮城県で就職したい理由【インタビューより】

- 住みやすい良いまち。バランスのいいまちだと思っている。自分は人混みは好きじゃない。満員電車に乗るのは嫌だから東京には住みたくない。仙台は山形と近く仙台に遊びに行く機会があって馴染みがあった。都会と自然のバランスがよくて生活するにはちょうどいいと思って仙台で就職したいと思っている（県外出身_女性）
- 大学から仙台に来た。仙台で一人暮らしを始めて交通の便がいいし、物価も高すぎず、住みやすいまちだと思った。仙台が住み慣れているから仙台かなと思う。東京に行こうとは思わない。田舎で育ってきたからいきなり都会に行っても慣れない。便利だけど親しみのあるまちがいいから仙台を選んだ（県外出身_女性）
- 仙台に住みたいから。自分は岩手出身。大学と同時に仙台に出てきた。とにかく仙台というまちが好き。これからもここに住みたい。その思いだけで仙台市内、宮城県内で就職したいと思った。実家はすごく田舎だからそれより都会がいいと憧れていて、仙台はちょうどいいまちだと思っていた。実家が岩手県。親に何かあったときにすぐに帰れるということもある（県外出身_女性）

就職先として「県外」を希望する理由

県内出身者は「宮城県外に住んでみたい」、「趣味や娯楽が充実している」など、これまでとは違う新しい環境を求めて県外就職を希望。

図6 出身地別 県外を選ぶ理由（複数回答）



女子学生が宮城県外で就職したい理由【インタビューより】

- 宮城が嫌いということはない。でもこれからの人生を考えたとき、今までずっと宮城に住んでいたから**出てみたいという気持ち**があって県外の就職先を希望した（県内出身_女性）
- どちらかというと宮城を出たい。**いろいろなところに住んでみたい**。できるのなら都会に行きたいと思っている。今まで自分が住んでいたところは田舎。都会だと遊びに行ったり、いろいろなアクセスが充実しているから楽しそうだなという単純な考えで志望した。宮城は友達もいるし住みやすい。逆にここにいる理由もないという気がする。**宮城でもいいけど他でもいいという感覚**（県内出身_女性）
- 今まで住んでいないような都会とか、逆にすごく田舎とか、極端なところに住んでみたい。**自分の環境を変えてみたい**（県内出身_女性）
- 宮城を出てみたい。自分1人で生活をしてみたい。**宮城県だと給料が安くなる**。だったら宮城県にこだわることはないと思った（県内出身_女性）
- 宮城県が嫌というより**都市部の方が自分のやりたい仕事で取り扱える量、幅が多い**と思って県外を志望した。金融系を志望している。宮城県では地銀が中心。今後の展望、見通しが立たなかった。都市部に行けば人口が多いし、扱えるお金の額も増えるから都市部の方がいいと思った（県内出身_女性）
- 自分としては、特に首都圏が良いとか宮城が良いとかいった希望があったわけではない。企画という職種がやりたかった。宮城は支社や営業所ばかりで、本社があまりない。そのため**キャリアを積むうえで宮城はデメリットが多い**と感じた。やはりキャリアを積んでいきたいし、昇進もしたい。全国転勤のある東京本社の企業を選んだ。戻ってきたとき（転職）のためにも**しっかりキャリアを積んでおきたい**（県内出身_女性）

「県外」で就職した後、将来宮城県に戻る可能性

将来宮城県に戻る可能性は、県内出身者が5割、宮城県を除く東北出身者が3割、その他出身者が1割宮城県への愛着や県民とのつながりがUターンを誘発させる可能性に期待。

図7 一旦宮城県を出た場合に宮城県に戻る可能性（単一回答）

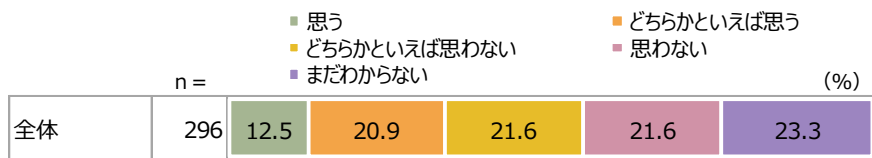


図8 出身地別 一旦宮城県を出た場合に宮城県に戻る可能性（単一回答）

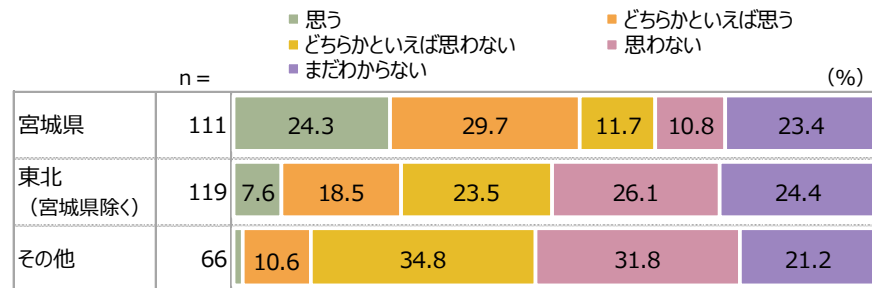
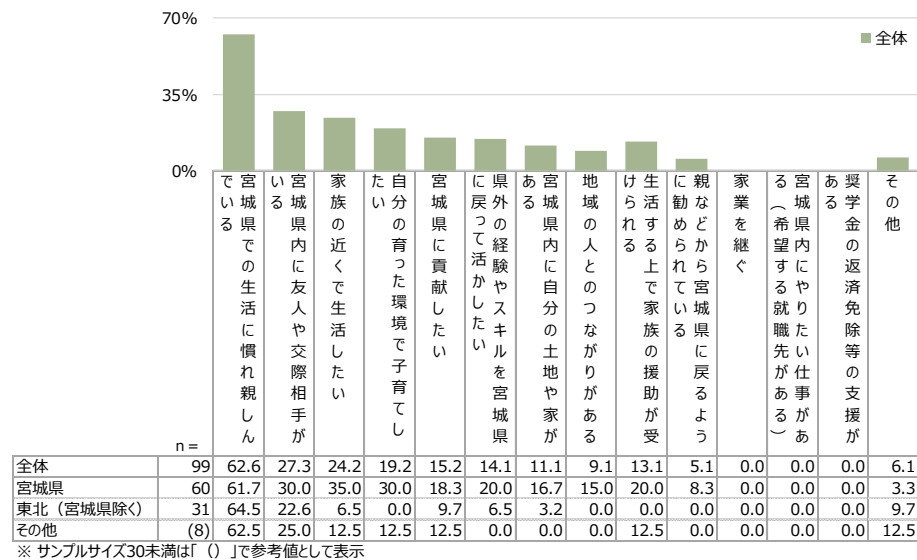


図9 出身地別 一旦宮城県を出た場合に宮城県に戻る理由（複数回答）



県内出身_女子学生の宮城県への将来的な定住や戻るタイミング [インタビューより]

- ・ 仙台は嫌いではない。むしろ住みやすく好き。可能なら将来的には仙台市に戻ってきたい。自分はひとりっ子なため、**両親が高齢になったら戻るのかな**と思う
- ・ 絶対に宮城に帰りたいというわけではない。今まで住んできて、学生生活での友達、人脈もある。過ごしやすいなというもある。もし**定住するときは候補の1つ**になると思う
- ・ **両親の介護をきっかけに地元へ転職**することもあり得るかと思っている

希望する就職先の規模

女子学生の大半は希望する就職先の規模にこだわらない
特に、県内就職希望者及び文系学部生は、その傾向が強い

図10 希望する就職先の規模（単一回答）

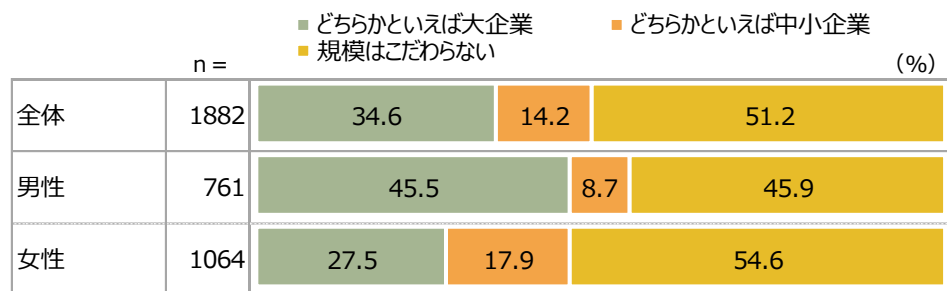
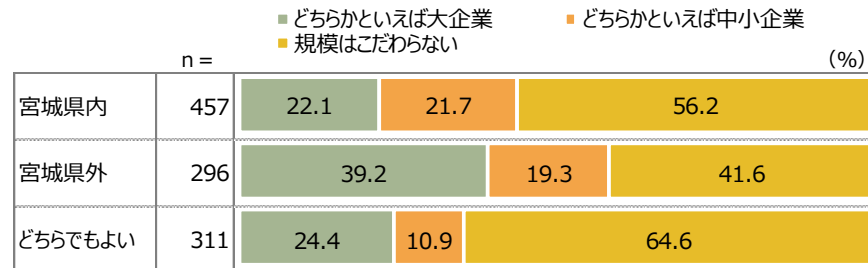


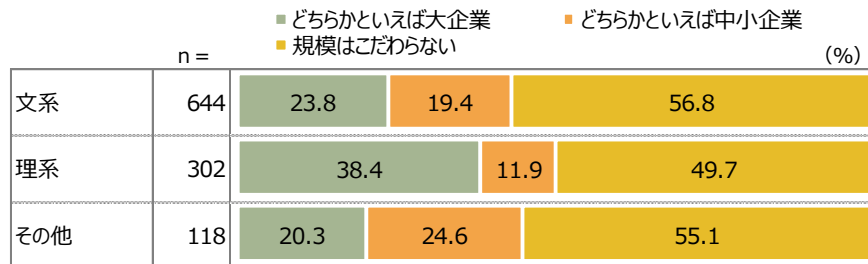
図11 希望する就職先地域別 希望する就職先の規模（単一回答）



希望する就職先の規模【インタビューより】

- 会社の規模自体には**こだわらない**（県外就職希望_女性）
- （会社の規模は）**結果的なもの**。仙台で希望する職種（SE）を調べると中小企業が多い。中小企業がいいのではなく、中小企業の方が多かったということ（県内就職_女性）
- **決まったところが中小**だった。福祉関係は地域に密着していて一人一人にサービスする仕事。だからそれで大企業というのはアンバランスさがある。どちらかという小さなおとなの方が地域密着でサービスを提供できるのかなと思った（県内就職_女性）

図12 学問分野別 希望する就職先の規模（単一回答）

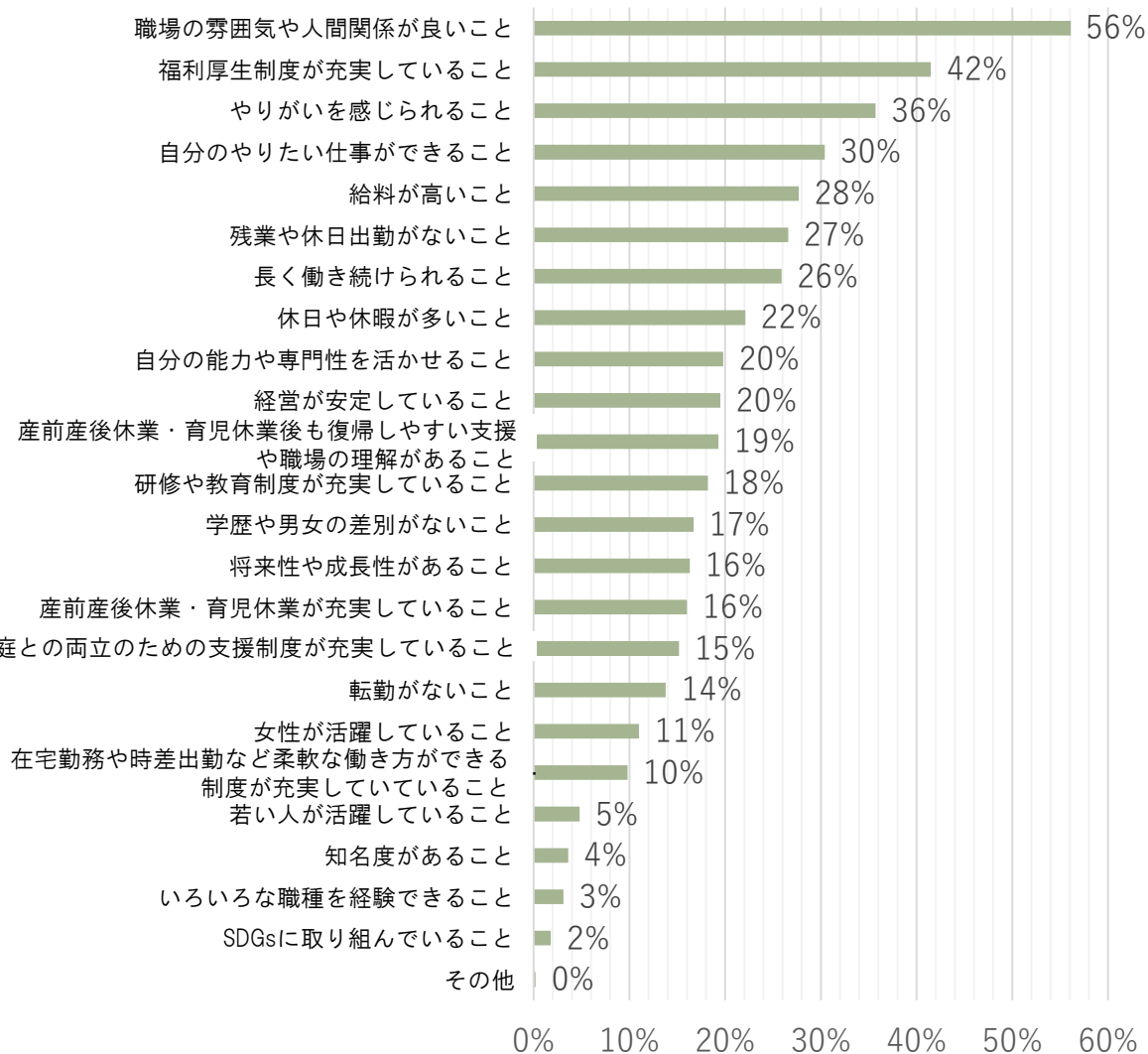


※「その他」は芸術、スポーツなど

就職先を選ぶ上で重視するポイント

女子学生は風通しのよい職場環境や福利厚生、やりがいのある仕事を重視

図 1 3 希望する就職先地域別 就職先を選ぶ上で重視するポイント（複数回答）



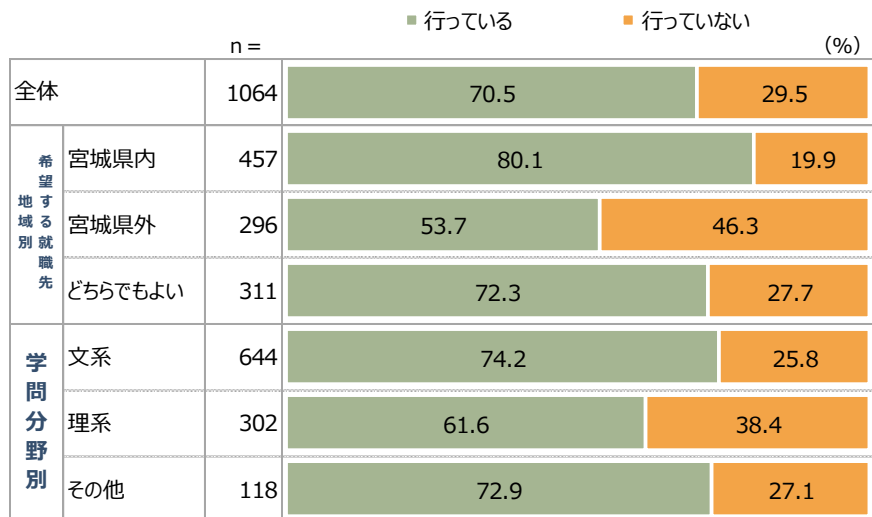
就職先を選ぶ上で重視するポイント【インタビューより】

- ・ **風通しのよい職場で働きたい。**一緒に働く仲間や部下の声を聞けずに自分でガンガン進める職場だとどこかで壁にぶつかって限界がきてしまうと思うから一緒に働く人たちが協力できる体制のある企業がいいと思っている。**給料はもろもろ含めて20万はほしい。**福利厚生は仮に県外に転勤になったときは**社宅や家賃補助があるところ**がいいと思って探している（県内就職希望_女性）
- ・ **福利厚生と、社員の雰囲気とか社風を重視した。**社員の雰囲気とか社風は説明会の雰囲気や社員同士の会話の雰囲気に着目していた（県外就職_女性）
- ・ **ワーク・ライフ・バランスを大事にしたいから休みをとれる会社がいい。残業時間が少ない会社がいい。福利厚生がしっかりしていればなおいい**と思っている。**家賃補助とか金銭面のサポートが給料以外にあると充実している**と思う（県内就職_女性）
- ・ **まずは自分がやりたい、興味を持てる仕事内容を重視した。**条件は**給料と休日数**を見た。あと**離職率**があまりにも高いところは怖い。給料のラインはとくに引いていなかったが、**一人暮らしをする前提でそのまちなで暮らしていけるのか**をネットで見て、それより高いか低いかを見ていた。**休日数は最低120日**はないと働いていて辛くなるかも先輩に聞いたからそれを基準に見ていた（県外就職_女性）
- ・ **料もそうだが福利厚生がしっかり整っているところ**がいい。**休みはしっかり週2日**あ給るところ。**時間外勤務の手当**があるところ。その**説明がしっかりあって実績があるところ**がいいと思う（県内就職希望_女性）
- ・ **お給料は20万以上**ほしい。有休は書かれている情報と結構違うという情報もあってわからないなと思っている。でも今のところは有休をとれるし、有休を使ってライプに行っていると聞いた（県内就職_女性）

県内企業への就職に関する情報収集の状況

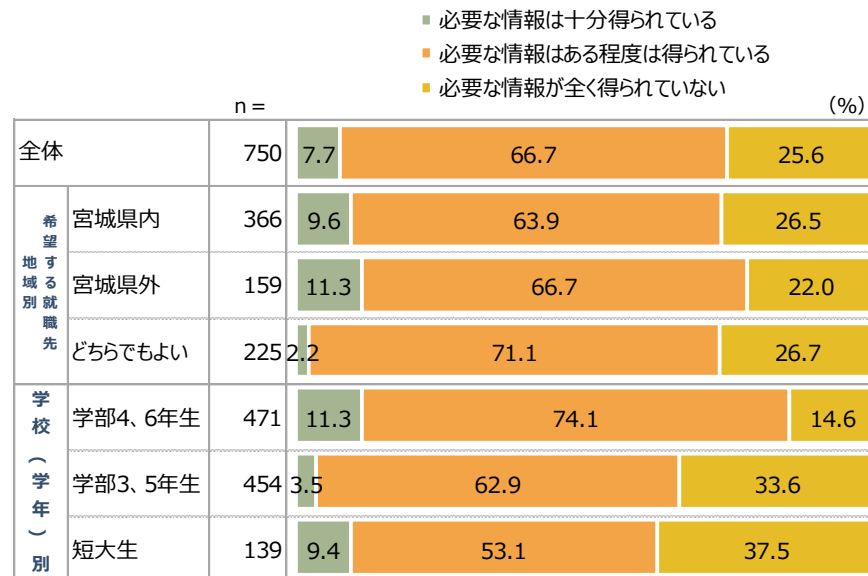
7割の女子学生が県内企業への就職に関して何らかの情報収集を行っている
 ただし、必要な情報が十分得られているのは1割程度に止まっており、3割は全く得られていない

図 1 4 県内企業への就職に関する情報収集の状況（単一回答）



※「その他」は芸術、スポーツなど

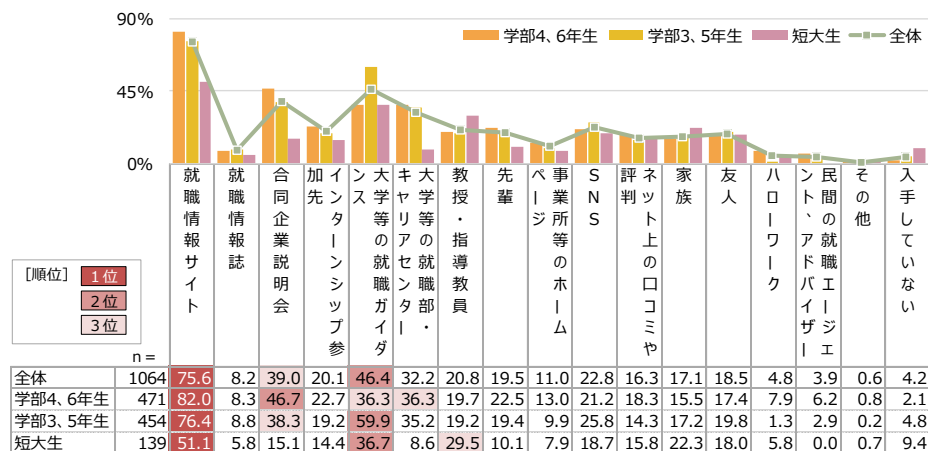
図 1 5 県内企業への就職に関して得られている情報の程度（単一回答）



就職関連情報の入手先

女子学生の就職関連情報の入手先は「就職情報サイト」「大学等の就職ガイダンス」「合同企業説明会」など

図 16 学校（学年）別 就職関連情報の入手先（複数回答）



女子学生の7割が就職活動にSNSを利用 SNSの具体的な活用方法は、就活の不安を解消するための情報収集

図 17 SNSの利用状況（単一回答）

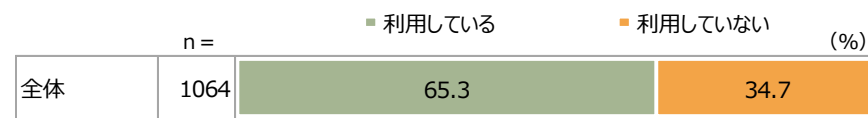
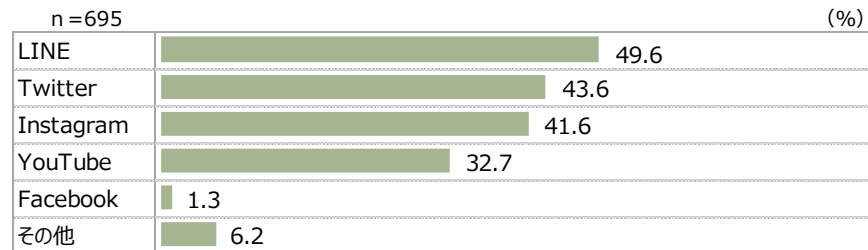


図 18 利用しているSNS（複数回答）



- インターネット中心でマイナビ、リクナビ、キャリアスを使って集めた。特に、**マイナビは使いやすい**と思った。年収や条件を選んで、スクロールしたときに（情報が）出るようになっている。いちいち開けなくても見られる。**就活会議**というのを見ていた。そこで受ける予定の企業の他の人の体験談を見て対策していた（県外就職_女性）
- マイナビ、リクナビ、キャリアス、オファーボックス、ワンキャリア、就活会議。Webもアプリも両方使用していた。大学からやるように言われていた。**オファーボックス**は企業からスカウトが来るもので、企業からスカウトが来ると**自分に対して興味関心を抱いてくれることがうれしかった**（県外就職_女性）
- 大学の就職支援の方**からアドバイスを受けていた。（県外就職_女性）
- 大学にも就職支援サイト**があって、そこに気になる業種を登録するとメールがきて、そこから企業に飛んでいた（県内就職_女性）

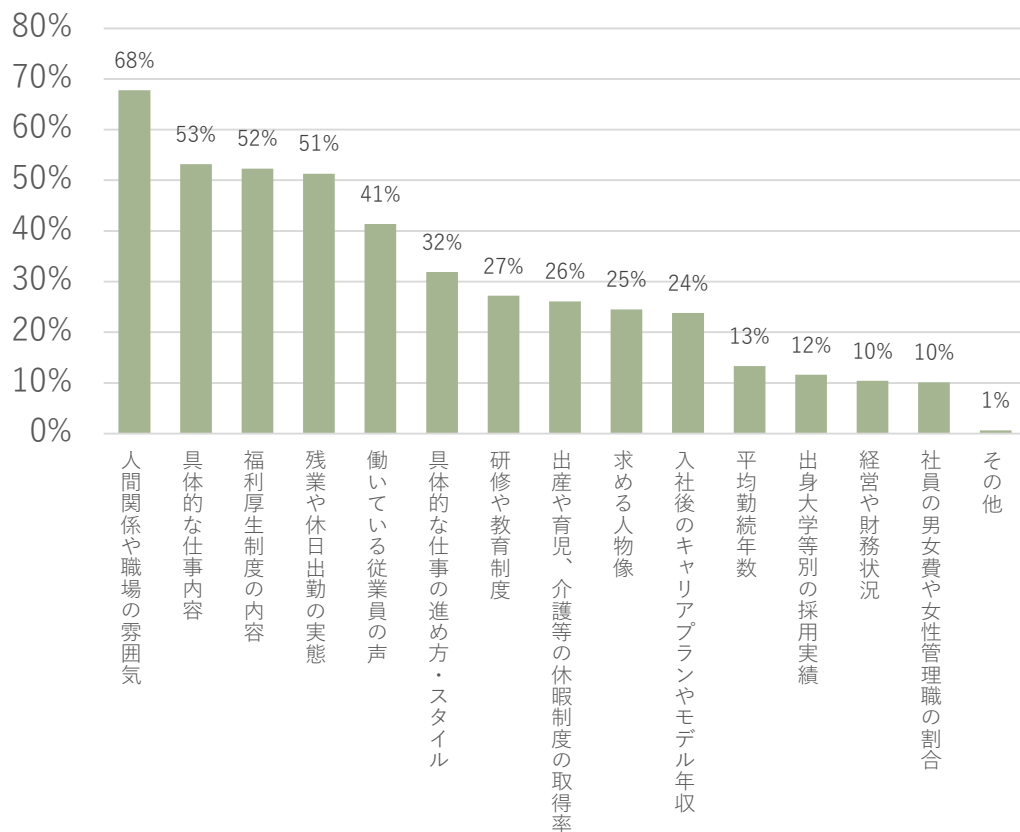
SNSの具体的な活用方法 [インタビューより]

SNS	活用方法
LINE	<ul style="list-style-type: none"> オープンチャット機能で今受けている人の流れが見られた。自分からは発信しなかったけど情報は見ていた（県外就職_女性） 企業の方とやり取りすることはあった（県内就職_女性）
Twitter	<ul style="list-style-type: none"> 内定状況がどうかや同年代で面接の感想を見るなど、どちらかという精神的な安定のために見ていた（県外就職_女性）
Instagram	<ul style="list-style-type: none"> オフの時間にInstagramを見ていたらすごく雰囲気の良いハウスメーカーの投稿（センスとかすごくきれいな成功例の写真）が出てきて、「会社説明会をやりまます」と出ていてそこから申し込んだ。Instagramは出会いの場にも使えるんだと思った（県内就職_女性）
YouTube	<ul style="list-style-type: none"> 興味がある企業に関しては直接ネットで調べて、その企業が発信しているYouTubeを見た（県内就職希望_女性）

就職先を選ぶ上で知りたい情報

就職先を選ぶ上で知りたい情報は「人間関係や職場の雰囲気」「具体的な仕事内容」「福利厚生制度の内容」など
学生一人一人に合わせて適切なサポートを行ってくれる企業や職場の働き方の実際を教えてくれる企業は好印象

図 19 希望する就職先地域別 就職先を選ぶ上で知りたい情報（複数回答）



印象の良かった企業について【インタビューより】

- 面接、面談をやってくれたり、こういうところが不安だと言ったら**会社の先輩の話**を聞く座談会に参加させてもらったり、そういうサポートをしてくれたところに好感を持った（県外就職_女性）
- 説明会の雰囲気や社員同士の会話の雰囲気に着目していた。**社員同士がフラットな関係で、リラックスした雰囲気**があり、しかもそれが作りこまれていない自然な感じがしたので今の会社を選んだ。ディズニーランドのキャストのように作りこんだ対応の会社は多い（県外就職_女性）
- 人事担当とのやりとりがすごく面白かった。社員訪問も気持ちよく受け入れてくれ、希望する職種の担当者との時間（1時間）を取ってもらうなど、**よく対応してくれた**（県外就職_女性）
- 説明会で実際に働いている人の話を聞いた。**福利厚生とか休日とか何も隠さず話してくれる社員がいた会社**があって、そこは信用できるなと思った（県外就職_女性）
- （面接の際に）**相槌を打ってくれる会社**さんは印象がよかった。内定をもらって決めた会社は相槌もあつたし、ちゃんと話を聞いてくれている感じがした（県内就職_女性）
- 面接中でも面接官ではなく**社会人として対等に話してくれる方**は印象がよかった（県内就職_女性）
- 連絡が早い企業は印象がよかった**。面接について送るとすぐに連絡がきた企業は仕事でも滞りなくやっているということだからいい印象だった（県内就職_女性）

希望する働き方

女子学生の7割は仕事とプライベートを両立できる働き方を求めている
 8割の女子学生は結婚したいと考えているが、1割は結婚を希望していない
 育児をしながら働きたいと考える女子学生が半数近くを占めたが、結婚あるいは出産を機に仕事を辞めて再就職したいと考える県内就職希望者は3割存在

図 2 0 希望する就職先地域別 希望する働き方①

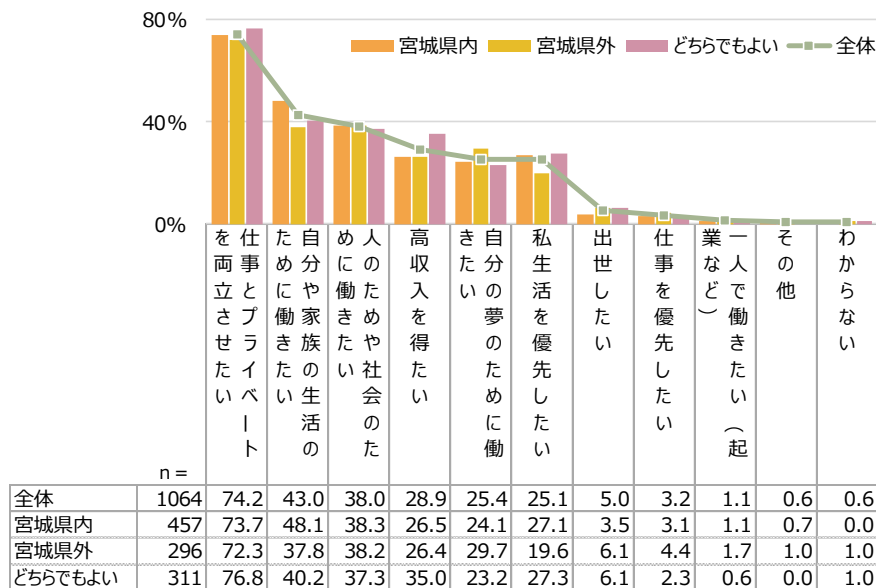
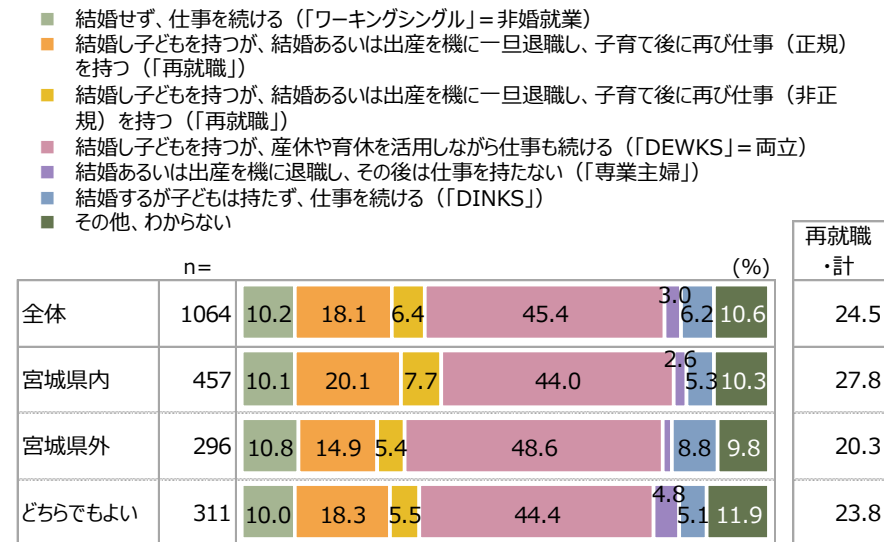


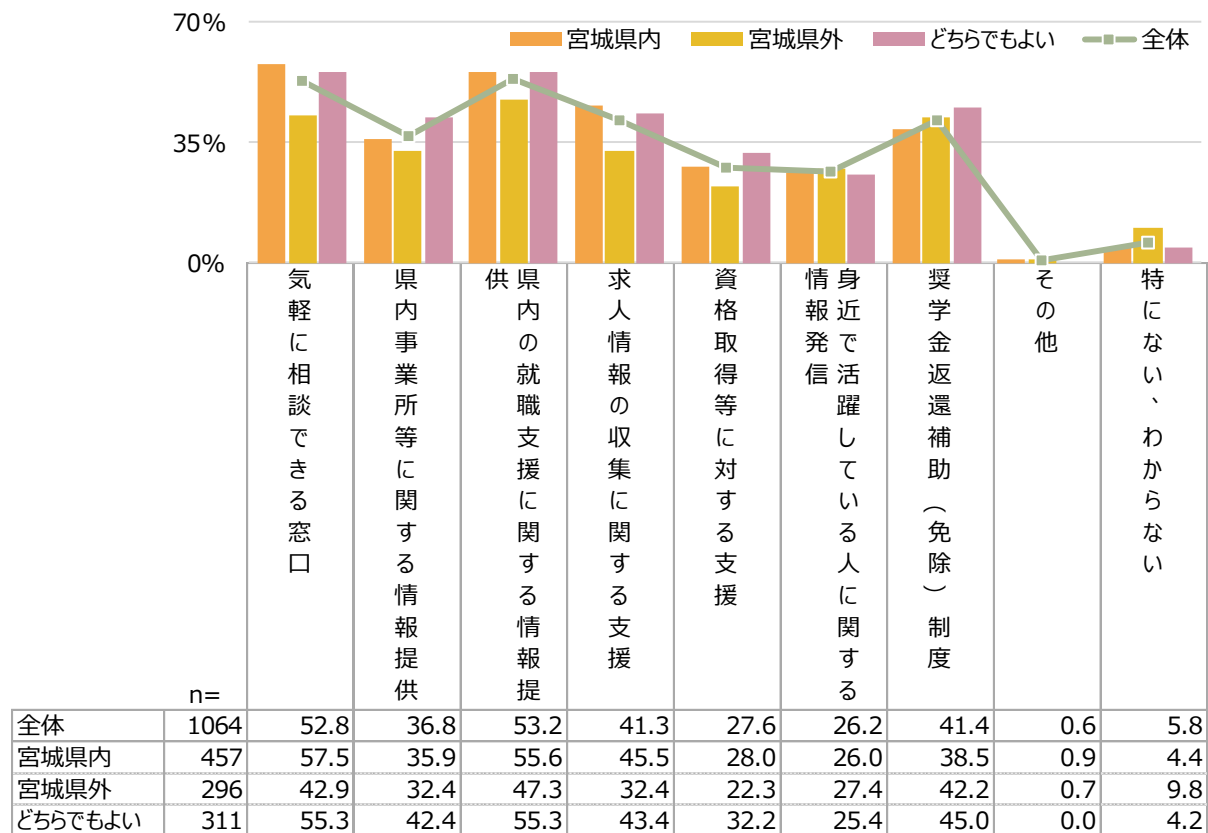
図 2 1 希望する就職先地域別 希望する働き方②



県内企業への就職を促す上で行政に期待する支援

行政に期待する支援は「県内の就職支援に関する情報提供」「気軽に相談できる窓口」「奨学金返還補助（免除）制度」

図 2 2 希望する就職先地域別 県内企業への就職を促す上で行政に期待する支援（複数回答）



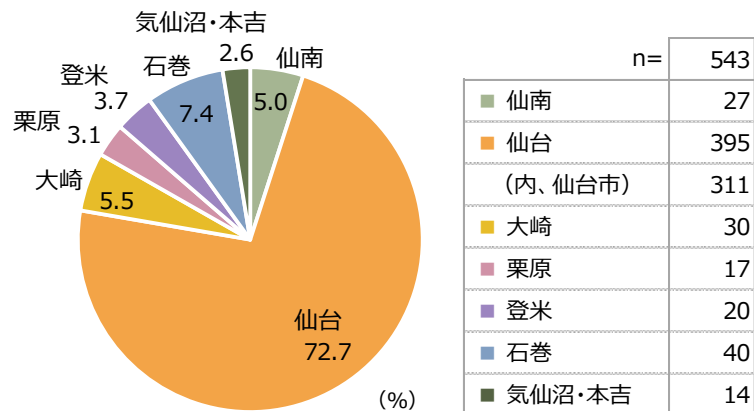
宮城県内企業における女性採用と女性活躍の実態

—企業等女性活躍実態調査の結果—

属性（１） 所在地・業種

所在地は、仙台市が57.3%、仙台市以外が42.7%となっている。
業種別では「卸売業・小売業」（19.8%）、「建設業」（16.8%）、「医療・福祉」（10.4%）、「製造業」（10.3%）となっている。

図23 企業所在地（単一回答）
【地域区分別】



【仙台市／仙台市以外別】

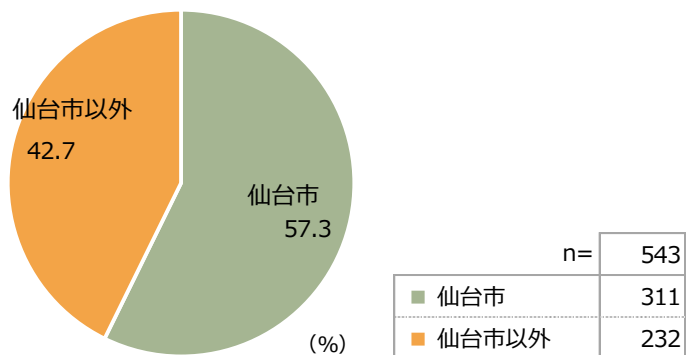
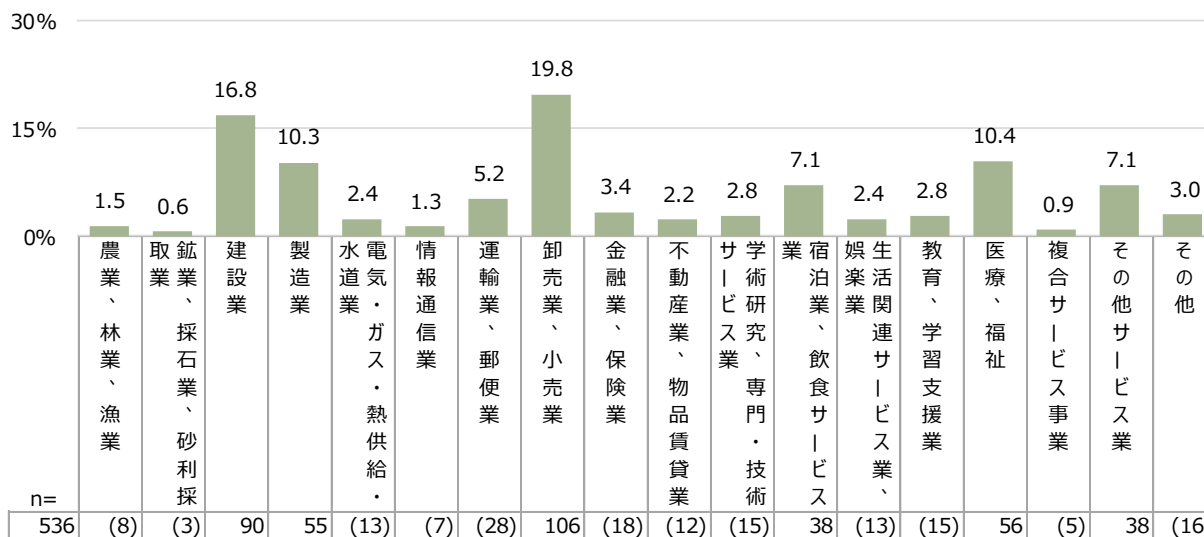


図24 業種（単一回答）



※ サンプルサイズ30未満は「（ ）」で参考値として表示

仙南：白石市、角田市、七ヶ宿町、蔵王町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町
 仙台：仙台市、塩竈市、名取市、岩沼市、多賀城市、富谷市、山元町、亘理町、松島町、利府町、七ヶ浜町、大和町、大郷町、大衡村
 大崎：大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町
 栗原：栗原市
 登米：登米市
 石巻：石巻市、東松島市、女川町
 気仙沼・本吉：気仙沼市、南三陸町

属性（２）規模（従業員数・女性従業員の割合）

従業員数100人未満が66.3%、100人以上が33.8%となっている。
従業員に占める女性の割合50%以上が24%、50%未満が76%となっている。

図25 企業規模（単一回答）

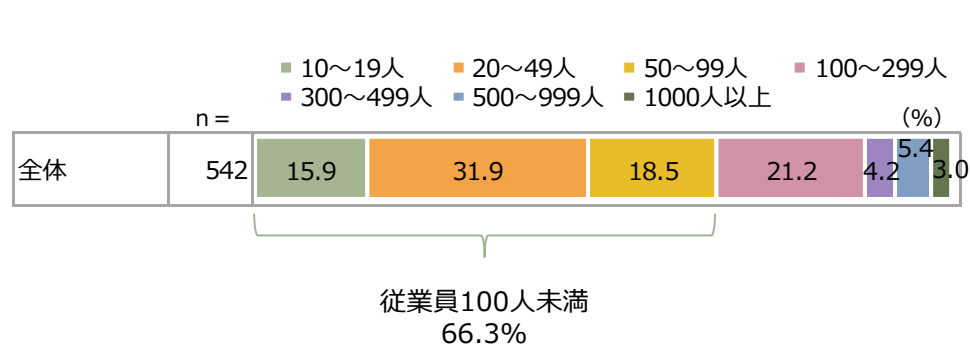
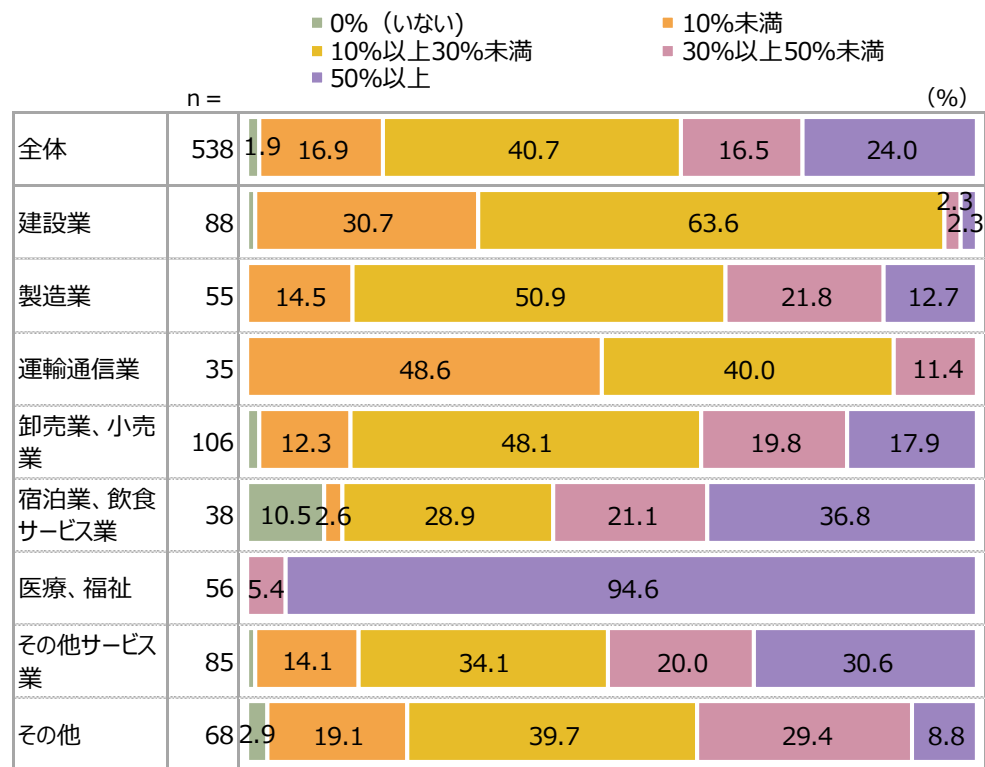


図26 業種別 正社員に占める女性の割合（単一回答）



女子学生の採用状況（1）採用状況

直近5年間の女性採用は、新規学卒で37.3%、中途採用・キャリア採用で61.6%となっている。新規学卒者を採用した企業に女子学生の採用についてたずねたところ、「思い通りに進んでいる」、「まあまあ進んでいる」の回答が64.9%となっている。

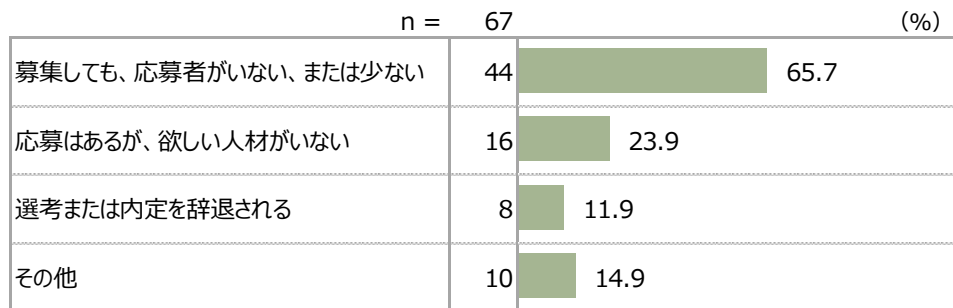
図27-1 新規学卒者（大学・短期大学）採用（単一回答）



図27-2 中途・キャリア採用（単一回答）

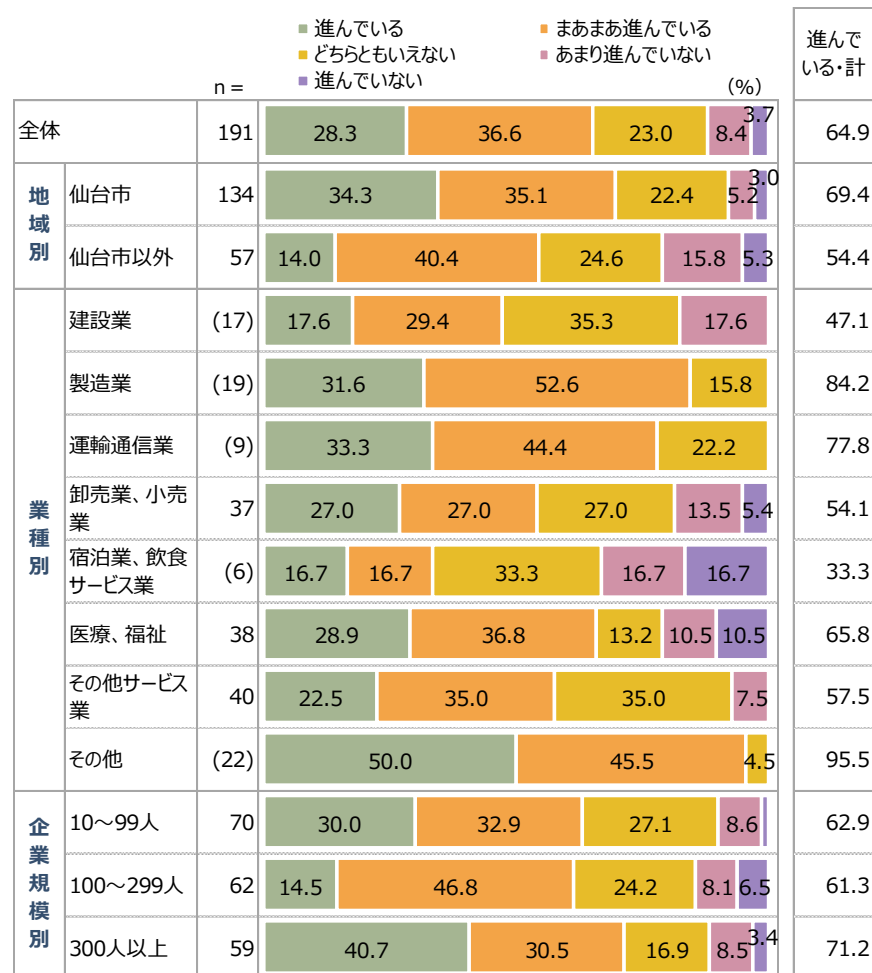


図28-2 女子学生の採用が進んでいない理由（複数回答）



※問9で「どちらともいえない」「あまり進んでいない」「進んでいない」と回答した企業

図28-1 女子学生の採用状況（単一回答）



※ サンプルサイズ30未満は「()」で参考値として表示

女子学生の採用状況（2）採用意向①

女子学生の採用意向について、「ある」が48.6%、「ない」が27.6%。規模別で見ると、100人以上が「ある」の割合が高い。地域別では、仙台市に所在する企業が、仙台市以外よりもやや高い。採用意向があると回答した企業に理由をたずねたところ、「優秀な人材を確保するため」が最も多く、次いで「多様な人材の活用を図るため」「経営戦略として女性の活躍が重要であるため」となっている。

図29 女子学生の採用意向（単一回答）

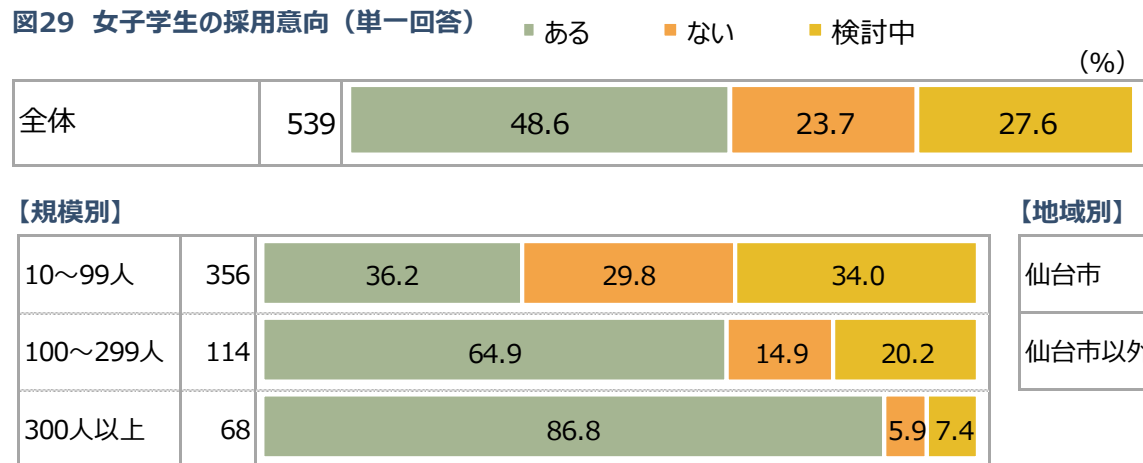
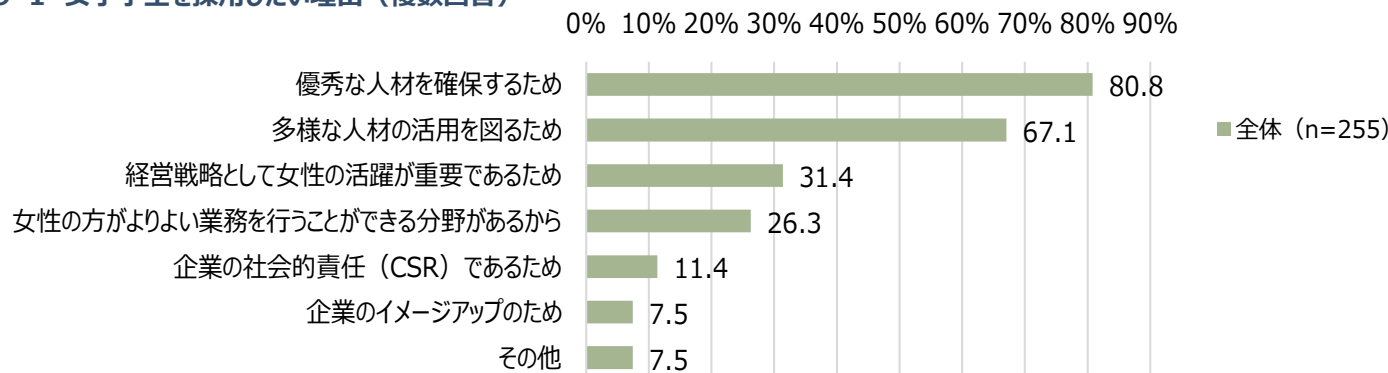


図29-1 女子学生を採用したい理由（複数回答）



女子学生の採用状況（3）採用意向②

採用意向がない、又は検討中の企業の理由は、「女性が担当できる仕事に限られている又はないため」が最も多く、次いで「新卒女性を育成する余裕がないため」、「出産や育児で長期休業したときに代替要員が確保できないため」、「結婚や出産で退職するおそれがあるため」となっている。

規模別にみると、従業員数100人未満の企業で、「新卒女性を育成する余裕がないため」「出産や育児で長期休業したときに代替要員が確保できないため」「結婚や出産で退職するおそれがあるため」の割合が高い。

図29-2 女子学生を採用したいと思わない理由（複数回答）

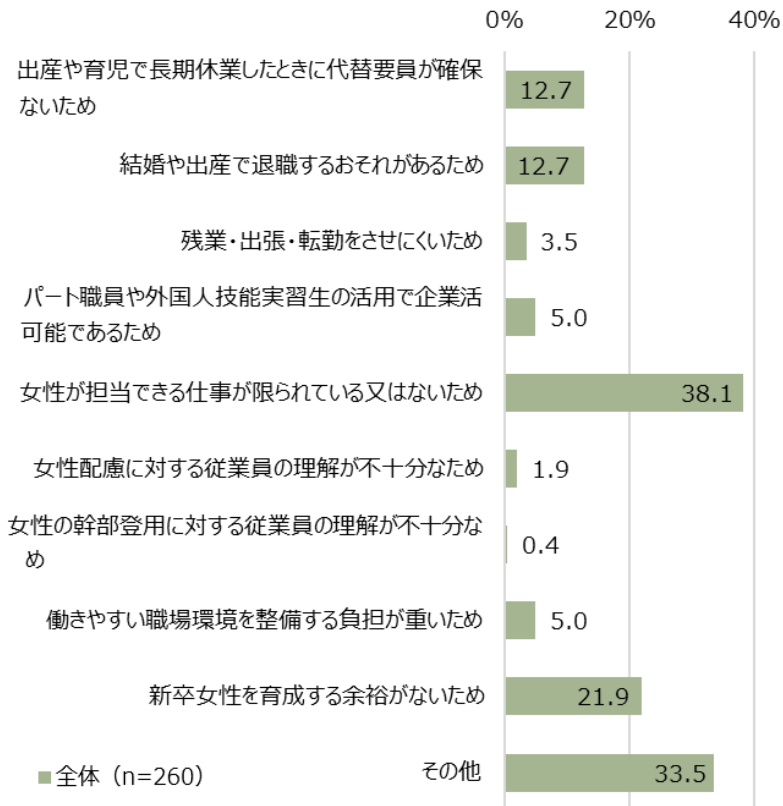
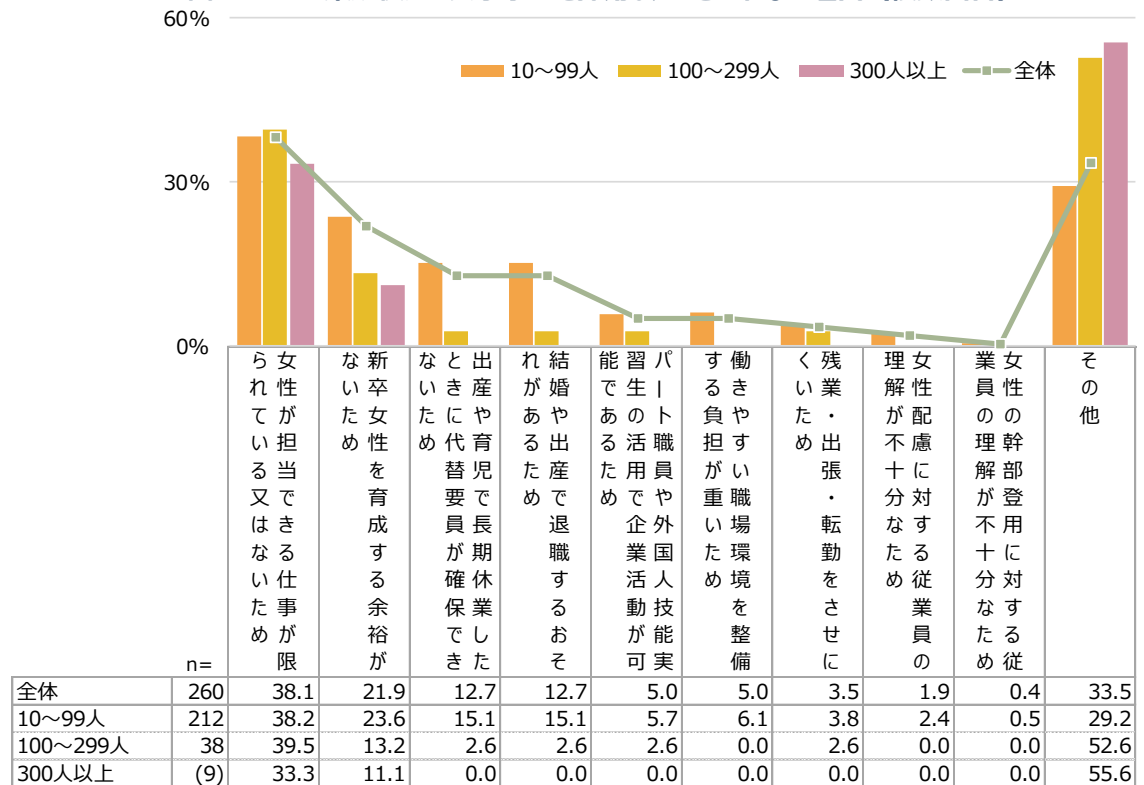


図29-3 企業規模別 女子学生を採用したいと思わない理由（複数回答）



※ サンプルサイズ30未満は「()」で参考値として表示

女子学生の採用状況（４）採用活動

採用活動で活用している手段では、「ハローワークなどの公的機関を活用した募集」が最も多く、次いで「就職情報サイトを活用した募集」、「自社ホームページでの直接募集」となっている。

採用活動の際に公表している情報では、「具体的な仕事の内容」が最も多く、次いで「福利厚生制度の内容」、「残業や休日出勤の実態」となっている。

図30 採用活動で活用している手段（複数回答）

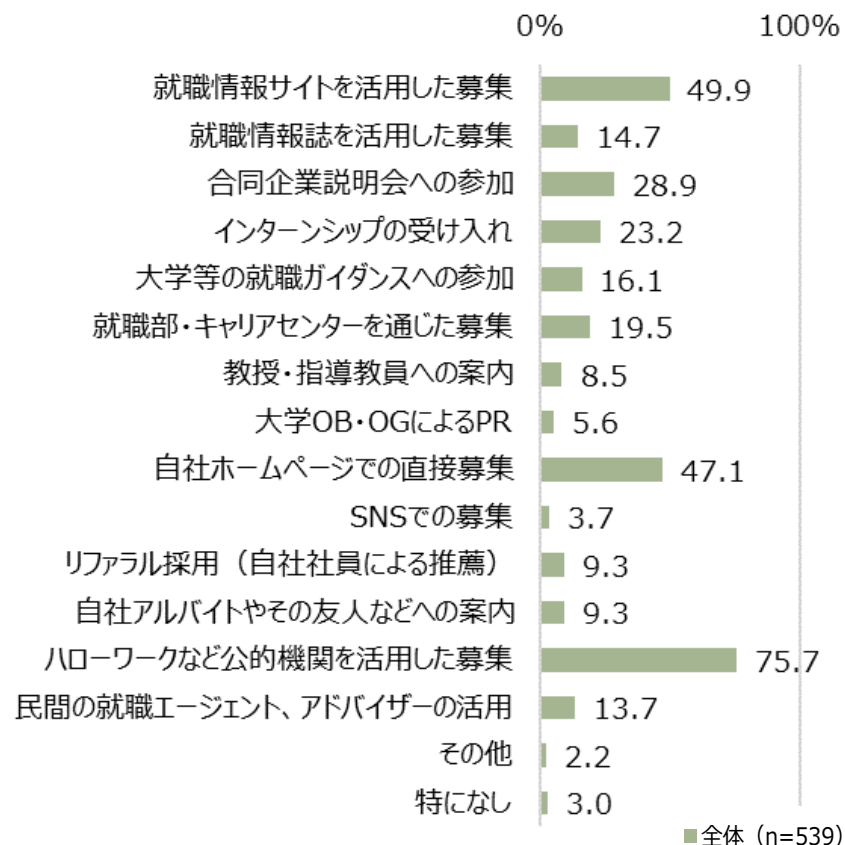
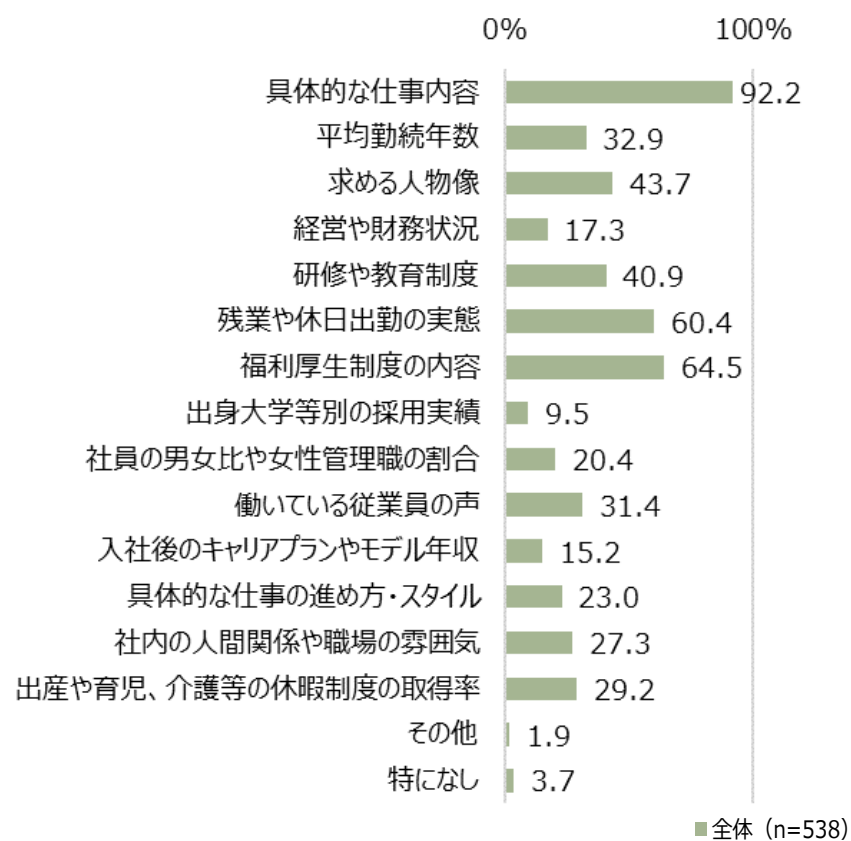


図31 採用活動を行う上で公表している情報（複数回答）



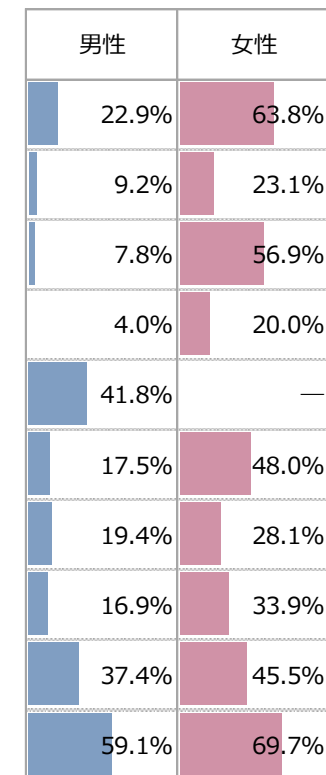
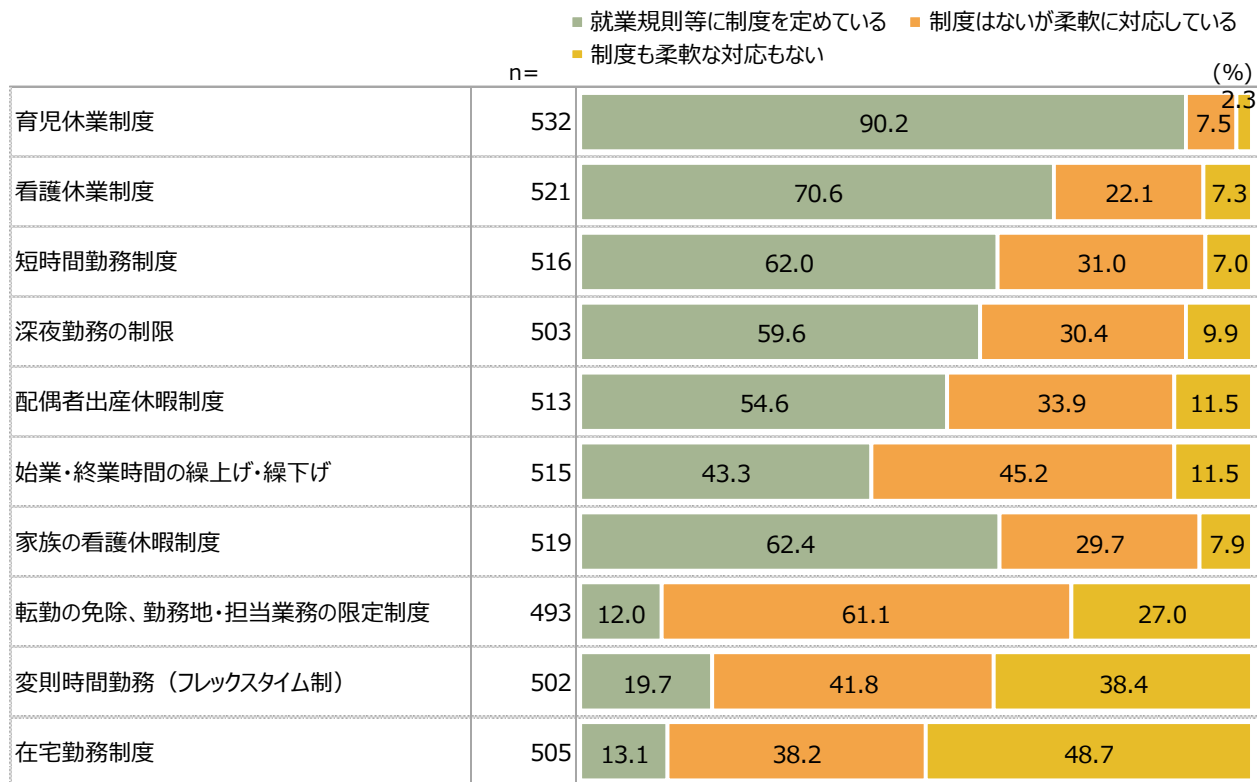
ワーク・ライフ・バランスの推進状況（制度の有無）

「就業規則等に制度を定めている」割合は、「育児休業制度」が最も多く、次いで「看護休業制度」、「家族の看護休暇制度」となっている。

一方で、「制度も柔軟な対応もない」割合は、「在宅勤務制度」が最も多く、次いで「変則時間勤務（フレックスタイム制）」、「転勤の免除、勤務地・担当業務の限定制度」となっている。

「就業規則等に制度を定めている」と回答した企業に制度の利用の有無についてたずねたところ、女性は「在宅勤務制度」が最も多く、「育児休業制度」、「短時間勤務制度」となっている。

図32 ワーク・ライフ・バランスを推進する制度（単一回答）及び制度の利用（複数回答）の状況



※ 制度の利用状況については「就業規則等に制度を定めている」企業における男女の利用割合

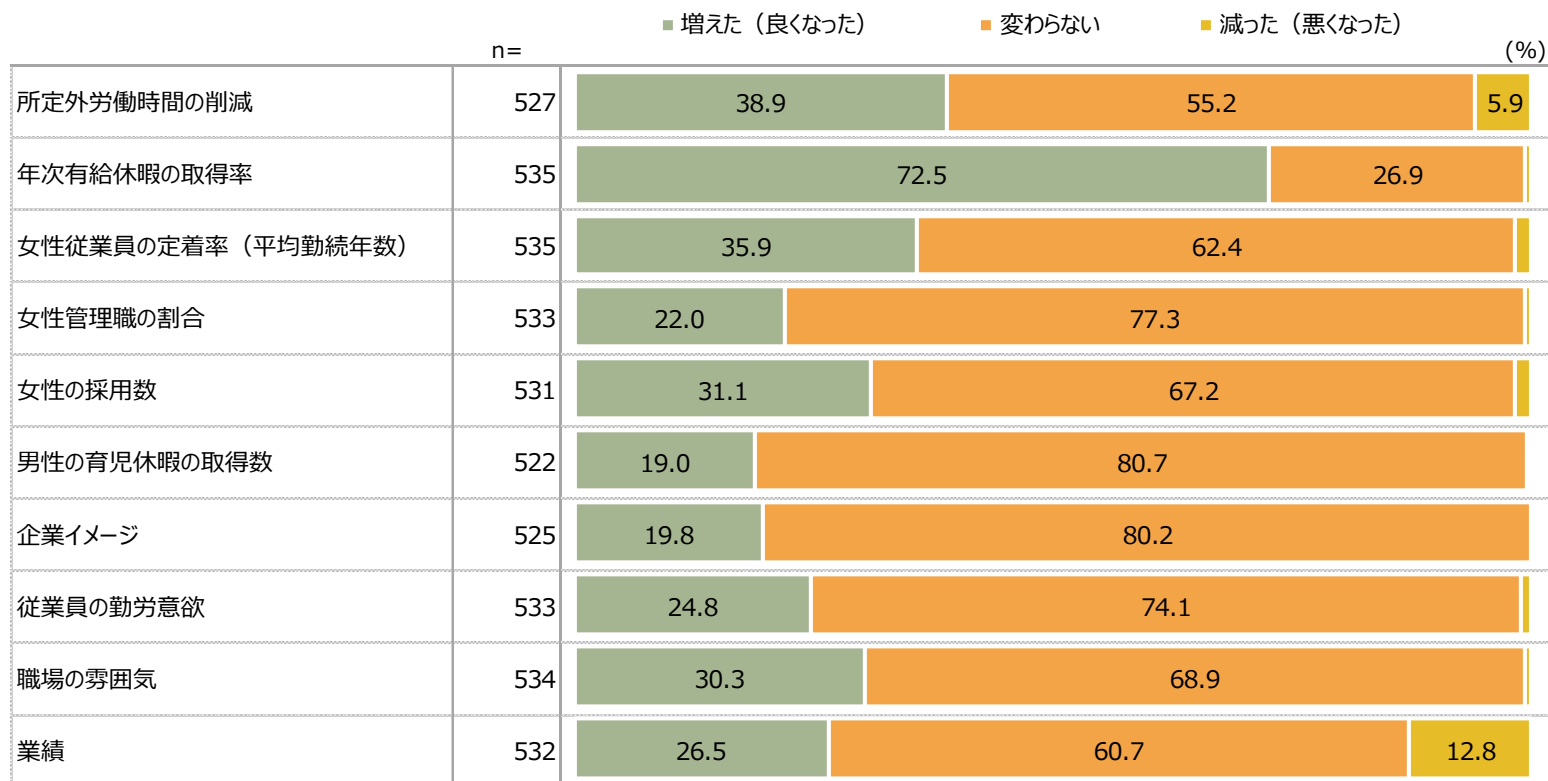
女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進の効果

「増えた（良くなった）」と回答した割合は、「年次有給休暇の取得率」が最も多く、次いで「所定外労働時間の削減」、「女性従業員の定着率（平均勤続年数）」となっている。

一方で、「変わらない」と回答した割合は、「男性の育児休暇の取得数」が最も多く、次いで「企業イメージ」、「女性管理職の割合」となっている。

また、「減った（悪くなった）」と回答した割合は、「業績」が最も多く、次いで「所定外労働時間の削減」、「女性従業員の定着率（平均勤続年数）」、「女性の採用数」となっている。

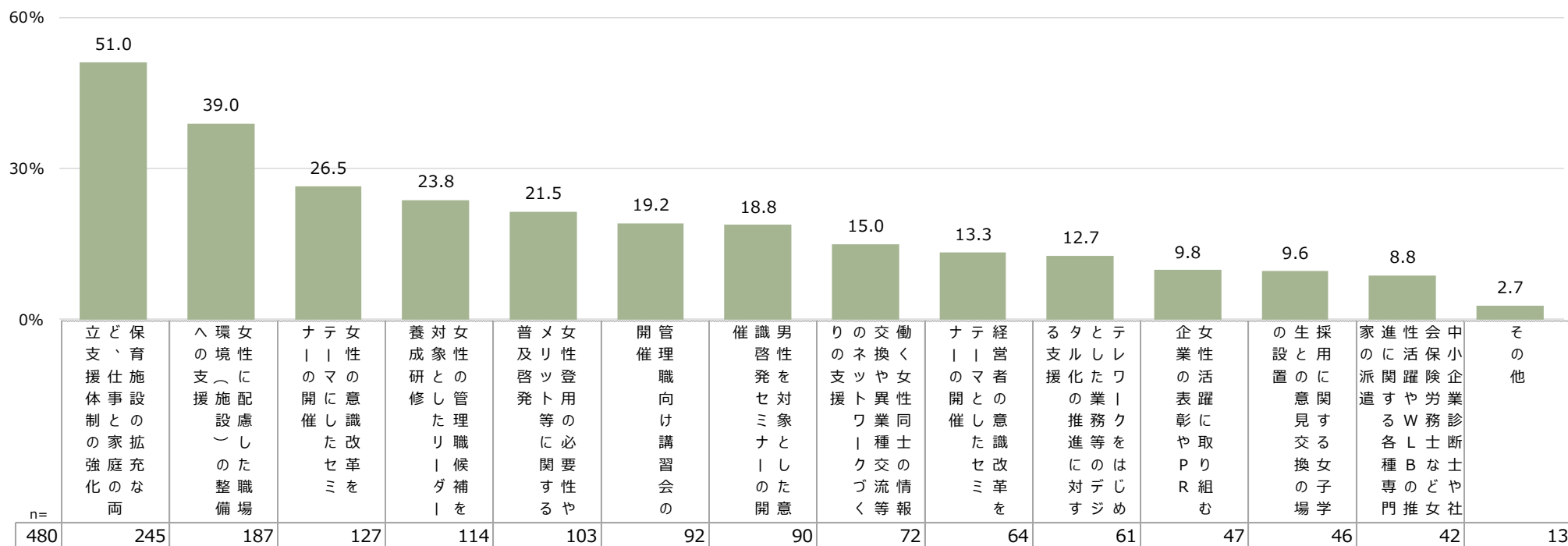
図33 女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進による直近3年間の成果の状況（単一回答）



行政に期待する施策等

女性活躍を推進する上で行政に期待する支援では、「保育施設の拡充など、仕事と家庭の両立支援体制の強化」が最も多く、次いで「女性に配慮した職場環境（施設）の整備への支援」、「女性の意識改革をテーマにしたセミナーの開催」となっている。

図34 女性活躍を推進する上で行政に期待する支援（複数回答）



まとめ

【宮城県内大学・短期大学学生就職等調査】

POINT 1 就職先地域 →参照P5, P7, P8

- ・女子学生が希望する就職先地域は、「**県内**」が4割、県内でも県外でも「**どちらでもよい**」が3割。
- ・県内出身者が県外への就職を希望する理由としては、「**宮城県外に住んでみたい（親元から離れたい、一人暮らしがしてみたい等）**」が最も多いが、一方で、そのうちの**半数が将来宮城県に戻る可能性あり**と回答。

POINT 2 就職希望先企業の規模 →参照P9

- ・就職先の規模は、「**こだわらない**」が5割、「**中小企業**」が2割と大半が規模にはこだわらない状況。特に県内就職希望者にその傾向が強い。

POINT 3 就職情報の入手先 →参照P11,P12

- ・就職情報のメインとなる入手先は**大手就活サイト**。
- ・就職活動に**SNS**を活用しているのは7割。
- ・県内企業の必要な情報を「**十分得られている**」のは**1割未満**。

POINT 4 就職先に求めるポイント・知りたい情報 →参照P10, P13

- ・就職先に求めることは、「**職場の雰囲気や人間関係が良いこと**」、「**福利厚生制度が充実していること**」。
- ・知りたい情報は、「**職場の人間関係や雰囲気**」、「**具体的な仕事内容**」。

POINT 5 希望する働き方 →参照P14

- ・**7割が「仕事とプライベートを両立させたい**」を希望。また、**7割は「育児をしなから働きたい**」。

POINT 6 行政に期待する支援 →参照P15

行政に期待する支援としては、「**県内就職支援に関する情報提供**」、「**気軽に相談できる窓口**」。

【企業等女性活躍実態調査】

POINT 1 新規学卒者の採用状況(直近5年間) →参照P19

- ・直近5年間に**新規学卒者を採用している事業者は4割**。
- ・採用が進んでいない最も大きな理由としては、「**募集しても応募者がいない、または少ない**」。

POINT 2 新規学卒者の採用意向 →参照P20, 21

- ・今後の女子学生の採用意向については、「**ある**」が5割、「**ない**」が2割。
- ・「ある」と答えた割合を規模別みると、300人以上が9割、100～299人が6割、100人未満は4割。
- ・採用したい理由としては、「**優秀な人材を確保するため**」、「**多様な人材の活用を図るため**」。
- ・採用しない理由としては、「**担当できる仕事に限られている**」、「**新卒を育成する余裕がないため**」。

POINT 3 採用活動で活用している手段 →参照P22

- ・**8割の企業はハローワーク**を活用した採用活動を実施。

POINT 4 採用活動で公表している情報 →参照P22

- ・具体的な仕事内容や福利厚生などの情報は多くの企業で発信しているが、**従業員の声や職場の雰囲気は少ない**。

POINT 5 女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進 →参照P23,P24

- ・女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進の取組は進みつつあるが、**目に見える効果は十分出ていない企業が多い**。

POINT 6 行政に期待する支援 →参照P25

- ・女性活躍を推進する上で、「**仕事と家庭の両立支援体制の強化策**」、「**女性に配慮した職場環境整備の支援策**」。